

(1) C地點蛇籠ト石積堰堤

山ニ登ル蛇籠

—砂防工事ノ一例—

工學士 那須 章彌

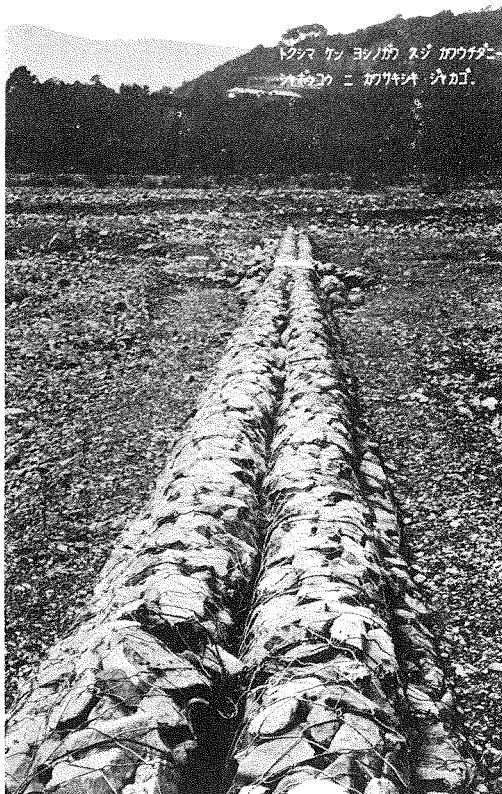
(1) すほ一つノ盛ンナ現代ダ、殊ニ時ハ山ノレーすんダ、蛇籠ノ山登リノ話モ一興タルヲ失ワナイダロウ！然カモ日本バカリデハナイ、ふらんすデモぞいつデモおーすこりーデモ盛ニシ山登リヲサセテ成績ヲ擧ゲテキル
(2) 本來蛇籠ナルモノワ、竹デ編ンダ籠デ河原ノ石ヲタラフク喰テ、川岸ニ寝テキレバ役目ガスンダモノデアツタ。ソレガ西洋ノ風ガ吹クト竹ヲ止メテ針金デ編ムヨウニナリ、明治43年頃カラハ機械製ガ現ワレテキテ大正期ニ大ニ用イラレ、從來ノ石垣龜腹等ノ位置ヲ奪フ様ニナツタ。其形モ圓形カラ角形ニナリフトン形ニナリ又寸筒形ニナツテ、色々ノ役目ヲ演ジテキル。最近ノ傾向デハ荒川ノ上流部ヤ谷ノ部分ノ土砂止等即チ平素ワ水ノ流レテキナイ様ナ急ナ谷川ニ使ハレル様ニナツタ尙甚シクナルトモツ登ツテ山ト山トノ接續部ヤ峰ヤ林野ノ中ニモ砂防工トシテ使ハレル様ニナツタノデアル。

(3) 讀岐ノ琴平カラ阿波池田ニ通ズル鐵道ハ本年4月ニ開通シタ（高知迄通ズルノハ尙遠キ後デアル）ガ、ソノ池田ト東德島トノ間ハ殆ド一直線ニ46哩ノ間、四國第一ノ大河吉野川ガ緩カニ流レテ、然カモ山ガ南北トニ川ヲ挾シテ對峙シテキルノハ、稀ニ見ル特殊ナ風景デアル。地質時代ノ或時ニハ海ガ深ク深ク池田近クアタリ迄イリコンデキタモノカト思ハレル（標高87mニスギナイ）

吉野川ノ改修工事ハ内務省ノ手デ施工サレテカラモウ數年ニナルガ、川ノ北方ニ連ル山脈ハ徳島香川ノ縣境ヲナスモノデ、大川山（タイセン山）ヲ始メ 1000m ヲ越スモノガ少クナ

イ。然モ吉野川カラ僅 8 k.m 内外ノ所ニ連座シテキルノダカラ其谷ノ急ナルコト思ヒヤラレルダロウ！

(2) B地點ノ長40間ニ亘ル蛇籠水制



(4) サレバコソ吉野川北岸ノ谷々ハオビタダシキ岩石ヲ押シ出ス荒レ谷デ、谷ノ幅モ300m以上ニ亘ルモノ少クナイ。ソノ谷々ハ何レモ撫養(ムヤ)街道ノ中ニアツテ平地ヨリモ高クナツテキル。自動車ガ走ツテキル間ニ道ガユルイ阪道ヲ上リキルトソコデ谷ヲ渡ル。一谷トハ高イ所地ト土地ノ小學兒童ハ思ツテイルソウダ。

此谷カラ押シ出ス土石ヲ防止シ荒レ谷ヲ順調ニ整理シヨウト云ノガ徳島縣ノ砂防工事ヲ勝町ニ砂防工營所ヲ設ケテ年々巨萬ノ工費ヲ投ジテキル。

(5) 河内谷砂防工事ハ其一例デアツテ平面圖ニ見ル様ニ兩岸カラ川崎式金網蛇籠ノ水制ヲ突出セシメ流心ヲ谷ノ中央部ニ誘導シテキル。流心ハ漸次縮リ下グラレテユクガ、蛇籠ハ良ク之レニ順應シテ屈從沈下スルカラ頗良

イ。——こんくりーミデ先端ヲ固結シタモノハ此ノ沈下ヲシナイカラ良クナカツタト云フ——カクシテ谷ノ本流ガ定マリ流敷ガ低下シタトキニソコニ固定的ノ石積堰堤ヲ作ツテ土砂ヲ溜メル様ニスルノダ。(寫真参照)

(6) カクシテ谷ヲセバメ流域ヲ固定セシムルコトヲ得レバ、其殘シタ地域ハ當然耕地又ハ林野地トシテ利用出來ルカラ、之レヲ民間ヘ拂下ゲレバ、一方其收入ニヨリ更ニ砂防工事ヲナス資源ヲ得ルト共ニ、他方國土ノ利用價値ヲ高メ國民經濟ヲ利スルコトモ甚大キイ誠ニ一舉兩得ノ工法デアル。

砂防工事ヲナスベキ地方ハ徳島縣ノ外尙多クガアリ夫レ夫レ工法ヲ工夫シテオラレルダロウガ、コニニ成績良キ一新工事例トシテ河内谷ヲ紹介スル次第デアル。

